

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	石巻市立貞山小学校 全校児童191名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (「冬季オリンピックを知ろう」)</p> <p>③ その他 (総合的な学習の時間「ボブスレー教室」)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) ボブスレー競技について知り、冬季オリンピックやその競技について関心を深める。</p> <p>(2) 選手が競技に取り組む姿勢や心構えを知り、オリンピックの価値「卓越」「友情」「敬意・尊重」について考える。</p>
5 取組内容	<p>(1) ボブスレー教室 [H29. 9. 27]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 仙台大学副学長鈴木省三先生と仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部コーチ進藤亮祐氏をお招きし、ボブスレー競技について教えていただいた。 • 前半は全校児童を対象に鈴木先生から講話をいただいた。鈴木先生は、ボブスレー競技の魅力について映像を使って教えてくださった。また、氷でできたコースを最高時速130 km でそりが進む様子を見せていただき、子供たちは驚きの声を上げていた。 <p>さらに、オリンピックの価値「卓越」「友情」「敬意・尊重」についてお話しされ、「目標をもちながら挑戦する大切さ」を子供たちに伝えてくださった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 後半は、6年生の子供たちを対象に、スケルトンの体験をさせていただき、体験用のそりにうつぶせになり、体育館の床すれすれに滑走した。子供たちは、目を輝かせながら「氷上のF1」と呼ばれるスケルトンの世界を、体験することができた。



	<p>「氷上のF1」スケルトン</p> <p>児童が怖さ、楽しさ体験</p> <p>石巻・貞山小</p> <p>さまざまなアスリートと交流し、夢を持つ重要性や努力する大切さを学ぶ「オリンピック・パラリンピック教育」に取り組む石巻市貞山小(児童191人)は9月27日、氷のコースを専用のそりで滑る「スケルトン」の体験教室を同校体育館で行った。6年生35人が、最高速度が約130km/hで「氷上のF1」と呼ばれる競技のスピードを体感した。</p> <p>仙台大の副学長でホブスレー・リユージュ・スケルトン部監督の鈴木省三さん(62)とコーチの進藤晃拓さん(27)が講師となり、競技のルールや魅力を紹介。低い姿勢で、肩をできるだけそりに付ける。「両脇のサドルをしっかりとつかんで方向を変える」とアドバイスした。</p> <p>児童たちはスケルトンの体験用そりに、うつぶせの状態になり、進藤さんに押ししてもらって体育館の床を滑った。勢いよく進むそりの扱いや速さに悪戦苦闘しながら何度も挑戦し、競技を楽しんだ。</p> <p>杉山優空君(12)は「ジェットコースターに乗っている感覚で少し怖かったけれど、慣れると速く進むのが面白かった」と話した。</p> <p>オリンピック・パラリンピック教育はスポーツ庁と筑波大学の委託事業で、貞山小は昨年から実施。これまでにプロアイススケーターの鈴木明子さんを招いている。</p>  <p>体験用のそりでスケルトンを体験する児童</p> <p>【2017年10月5日「石巻かほく」の記事より】</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 冬季オリンピックの種目について詳しく説明をしていただいたことで、2018年2月に行われるピョンチャンオリンピック・パラリンピックについて関心を高めることができた。</p> <p>(2) 地元の仙台大学から、日本代表として2人の選手がピョンチャンオリンピック男子スケルトンの競技に出場することを知り、ふるさと宮城を誇りに思う心が育った。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>(1) 前半は、全校児童を対象に講話をいただき、後半は、6年生を対象に体験活動をさせていただいた。発達段階に応じ、活動を設定したことで、子供たちは集中して活動に参加することができた。</p> <p>(2) ピョンチャンオリンピック直前の時期に、直接競技に関わっている方からお話を聞くことができたのは、大変幸運なことであった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 冬季オリパラに対し、子供たちが高い関心をもてるよう活動を工夫していかなければならない。選手一人一人の競技に向う姿から、「夢」や「希望」そして「生き方」をどのように学ばせられるかが課題である。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仙台大学の鈴木先生とのつながりを大切に冬季オリパラに関する活動を継続していきたい。